

大町市で群発する地震報道でNHK長野放送局から取材を受けた信州大学大塚勉特任教授(地域防災減災センター)より補足コメントを頂きました。

NHK長野放送局 4月20日報道『地震頻発で大町ダム周辺の観光客も通る道に落石』

大町市で震度1以上を観測した地震

観測日	最大震度	観測日	最大震度
3/21日	2	14日	1
21日	1	15日	2
31日	1	15日	2
31日	2	16日	2
31日	2	16日	1
4/ 5日	2	16日	1
6日	2	17日	1
13日	3	17日	1
13日	1	18日	1
14日	1	18日	1

大町市では、先月下旬以降、震度1から3の揺れを観測する地震がややまとまって発生していて、市内の多目的ダム周辺の観光客も通る道に、最大で直径30センチの石が数個落ちているのが確認されました。
 ダムの管理所は、注意して通行するよう呼びかけています。

長野地方気象台によりますと、大町市で震度1から3の揺れを観測する地震は、先月21日から今月18日まで、あわせて20回、ややまとまって発生していて、今後も続くおそれがあるということです。

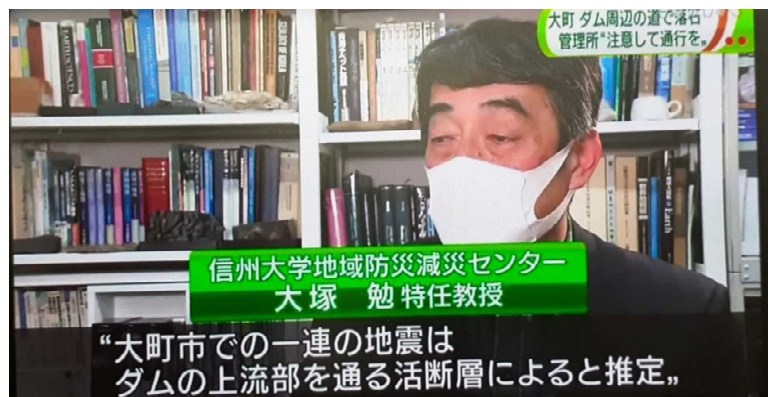
このうち、震度2を観測する地震が2度起きた今月15日には、市内の多目的ダム「大町ダム」を管理する国土交通省の管理所が、ダム湖脇の観光客も通る道に最大で直径30センチから10センチまでの石が少なくとも5個落ちているのを確認しました。

管理所は、道の脇の斜面の風化した石が地震の揺れで落ちてきたとみられるとしています。

また、地震でダムへの影響はないとしています。

管理所は、落石が起きた場所が大型連休に見頃を迎えるシャクナゲの群生地に向かう道の途中にあるため、道の斜面側をロープなどで入れないようにし、注意を呼びかけています。

県内の活断層に詳しい信州大学地域防災減災センターの大塚勉特任教授は「大町市での一連の地震は、ダムの上流部を通る活断層によるものと推定され、それにより、岩石の一部が崩落した可能性が考えられる。今後も十分気をつけてほしい」と話しています。



大町市での一連の地震は、大町ダムと七倉ダムの中間部で北西-南東方向に高瀬川を横断する活断層に沿って発生している(気象庁の一般向けの発表は正確な位置を表していない)。震源地は地下数kmから10km。地下で断層が動いているが、地表面には到達していない。地表で大きく変位(地割れ等)するものではなさそうだ。大町ダムで生じた落石は浮き石が地震の震動で動いたものと思われる。